

インテルが「IDF Spring 2005」で製品ロードマップを刷新 最初のマルチコア CPU は第 2 四半期に登場

塩田 紳二

3月1日から3日まで、米国サンフランシスコにて「IDF (Intel Developer Forum) Spring 2005」が開催された。同イベントは、年2回インテルが開発者向けに開くコンファレンスであるが、基調講演でロードマップや新技術が紹介されることから、業界ではインテルの動向を知るための重要なイベントとなっている。

今回の話題の中心はマルチコア(複数のCPUコアを持つ)プロセッサ。すでにAMDがデュアルコア(2つのCPUコアを持つ)CPUのデモを行い、PowerやSPARCなどのCPUもデュアルコアに移行しており、いまやデュアルコアそしてマルチコアはプロセッサのトレンドと言える。

インテルは昨年5月に計画を変更し、2005年中のデュアルコアプロセッサ投入を決めた。これまで、デュアルコアプロセッサについてはほとんど情報を公開してこなかったが、今回、今年から来年にかけて登場するデュアルコアプロセッサとそのロードマップを公開した(図1)。

2年以内にほとんどの製品がマルチコアへと移行

年内に登場するのはSmithfield(開発コード名)と呼ばれるもので、2つのCPU



図2 今年第2四半期にPentium D/Extream Edionとして登場するSmithfieldプロセッサ。

Intel Multi-Core Briefing - March 1, 2005

The Move to IA Multi-core

Platform	Current	2005	2006+	Future
Itanium MP Server	Itanium® 2 Processor	Montecito	Montvale	Tukwila
Itanium DP Server	Itanium® 2 /Fanwood	Millington	DP Montvale	Dimona
Xeon MP Server	Intel® Xeon® Processor MP	64-bit Xeon processor MP	Paxville	Tulsa
Xeon DP Server/WS	64-bit Intel Xeon Processor w/ 2MB cache		Dempsey	Future
Desktop Client	Pentium® 4 processor	Pentium® Processor Extreme Edition Smithfield	Presler	Future
		Pentium® 4 processor	Cedar Mill	
Mobile Client	Pentium® M processor		Yonah	Future
			Yonah	
			Single core	Dual/Multi-core

図1 インテルのCPUロードマップ。緑色がデュアル/マルチコア製品。年内には、デスクトップ用にSmithfield、IA-64としてMontecitoが、来年はXeonとなるDempseyなどが登場。

コアを1つのダイにまとめたもの(図2)。具体的な製品としては、Pentium DとPentium Processor Extream Editionの2つ。どちらも2005年の第2四半期に登場する予定である。

サーバーで使われるXeon系でのデュアルコアCPUの登場は来年になる。これは、シングルコアCPUであるCeder-

Mill(開発コード名)をベースにしたもの。同じくCederMillコアは、デスクトップCPU用にも利用され、Preslerという開発コード名のCPUになる(図3)。

このほか、IA-64系は、これまでの計画通り、Montecito(開発コード名)が今年登場する。またモバイル系では、現在のPentium Mの後継となるデュアルコアプロセッサとしてYonah(開発コード名)が2006年に出てくる。こちらも、開発が先行しており、メモリバスを共有し、性能的な向上がはかられている。また、このYonahにはシングルCPU版も用意される。

インテルは、2006年中にデュアルコアの比率を70%(サーバーは85%)にまで引き上げる計画である。つまり、今後出



図3 2つのCedermillコアを搭載するPresler。デスクトップ用のデュアルコアCPUとして、今年登場するPentium D/Extream Editionの後継となる。

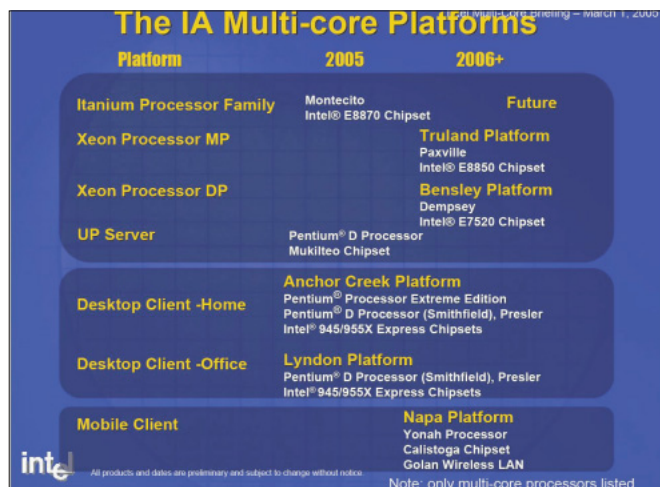


図4 各プラットフォームごとの製品構成。CPUとチップセットなどを組み合わせたプラットフォームがサーバーやデスクトップ分野にも登場する。

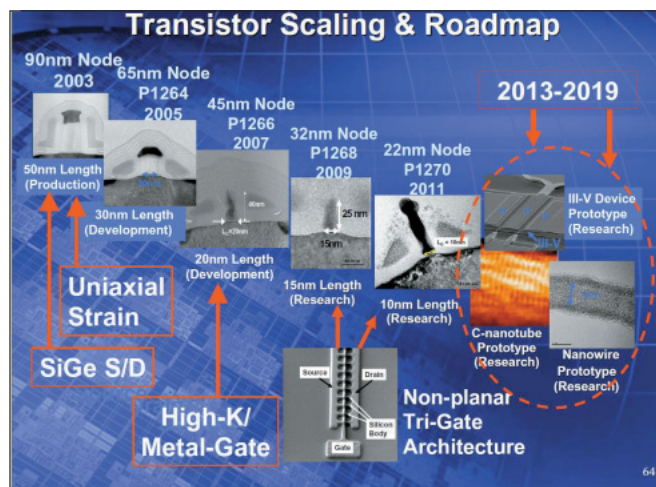


図5 プロセス技術のロードマップ。プロセスの微細化が進むと2013年以降には、カーボンナノチューブなどの新技術を導入する必要があるという。

荷するプロセッサの大半をデュアルコアにするということだ。

パーツ単位からプラットフォーム単位でのシステム提案へ

今回のIDFから、インテルは、デスクトップやサーバーにも「プラットフォーム」の考えを導入した。インテルの言う「プラットフォーム」とは、現在のノートパソコンで使われている「セントリーノ」のようなものを指す。CPU単体で性能などを示すのではなく、チップセット、無線LANモジュールの組み合わせに対してセントリーノという「プラットフォーム」名を付け、これについての利便性や性能などをアピールするというもの。OEM向けには、世代ごとにプラットフォームを提案、これをベースに製品を作ってもらう。

デスクトップ、サーバーでは、CPUとチップセット、そしてネットワークコントローラを組み合わせてプラットフォームを作る(図4)。

インテルがプラットフォームを前面展開したのは、1つにはマルチコアプロセッサが単純にシングルコアプロセッサと比較しにくいからだ。マルチコアでは、複数スレッドが同時実行できるものの、1つのプログラムごとの処理性能クロックが同じシングルプロセッサと同程度でしか

ない。

インテルは、ネットワーク側からPCを管理するIAMT (Intel Active Management Technology) やネットワークやRAID処理を高速化するI/OAT (I/O Acceleration Technology) といった機能を開発しているが、これらの機能は、CPU自体ではなく、チップセットや周辺チップによって実現される。したがってこれらをアピールするためには、プラットフォームとして提案するしかない。

いままでのように単純にクロック周波数でパソコンの性能を語ることが困難になっている。そこで、CPUやチップセットからなるプラットフォームという形で、ユーザーに機能や性能を提示し、CPUのクロックでパソコンを判断するのではなく、採用しているプラットフォームにより特徴や違いを判断してもらおうというわけだ。実際セントリーノでは、使われているCPUがPentium Mだと認識しているユーザーはそう多くない。知名度としては、Pentium Mよりもセントリーノのほうが上だろう。

今回のIDFでは、プラットフォームはコード名として紹介されたが、一般向けデスクトップ用のデュアルコアプロセッサの登場時期(2005年第2四半期)には、プラットフォームにセントリーノのような名称

を付け、一般ユーザー(非ビジネス分野)向けにPCメーカーとの共同キャンペーンを予定している。

将来的にはメニーコアとメモリー統合を実現

インテルでは、2つ以上のCPUコアを内蔵したものを「マルチコア」、10~100程度の多数のコアを内蔵したCPUを「メニーコア」と呼ぶ。

メニーコアでは、必ずしも同じコアが多数搭載されるとは限らず、特定の目的に特化したCPUコアが含まれる可能性もあるという。ソニーがプレイステーション3で採用予定のCellも同様の構成で、これを一般に「ヘテロニアス(異種混在)マルチプロセッサ」と呼ぶ。

インテルでは、この種のCPUではメモリバスがネックになると予測。そこで、メモリコントローラをCPUに内蔵するとともに、3次元方向にダイを配置して直接配線する技術を開発中だという。これによってメモリとCPUが最短距離で接続され、高速なアクセスが可能になる。

また、CPUを作るプロセスルールも2年周期で縮小していくが、2013年以降には、カーボンナノチューブなどの新材料を導入する必要があるとして研究を行っていることも明らかになった(図5)。

通信業界の世界最大級イベント「3GSM World Congress 2005」が開催 3G サービスで盛り上がりを見せる欧州市場

インプレス インターネット生活研究所
堀田 有利江

通信業界における世界最大級の国際展示会「3GSM World Congress 2005」が、2月14日から17日まで映画祭でも有名なフランスのカンヌで開催された。

同展示会は、世界中の通信キャリアや端末メーカーの要人が集まるとともに、関連企業各社が毎年、大きな発表を行う場にもなっている。今年は、ノキアとマイクロソフトの音楽配信分野における提携や、ソニー・エリクソンによる「ウォークマン」ブランドの端末などが発表された。

焦点は3G サービス普及とHSDPA、TV、ビデオ電話

欧州各国でも3G サービスが立ち上がりつつある。そんな中、今年の「3GSM World Congress」の焦点は、3G サービスの普及動向とBeyond 3G通信技術となるHSDPAなどであった。

また、3Gの本格的普及を睨んだキラーアプリとしては、トラフィック増加を見込みTVやビデオ電話などが話題となっていた。

テレビ電話のデモは、LG、サムスン、ノキア、ソニー・エリクソン、NTTドコモなど、多くのブースで見かけられた。中には、テレビ電話からもう一歩進んだビデオシェアリングやビデオ会議などの機能を備えた端末も紹介されていた。BBCなどの放送事業者も講演を行い、モバイルと放送とPCの融合サービスについて語っていた。

今後のケータイ市場は新ビジネスの創出が課題

世界各国の通信事業者が集まる同イベントには、中国のチャイナモバイルや、韓国のSKテレコムなどからも講演者が参加。日本からは、NTTドコモ代表取締役社長の中村維夫氏がインタビュー形式の基調講演に登壇した。

欧州では、3Gがようやく立ち上がりつつある状況だけに、世界に先駆けて3Gサービスを開始したNTTドコモの取り組みに関する話は聴衆の関心も高い様子だった。

中村氏はHSDPAについて、「2006年度に導入する予定。追加投資が少なく、コストを削減できる点がメリット」とコメント。今後は日本以外のメーカーが日本市場に参入し、一方で日本メーカーによる欧米進出拡大も期待すると述べた。

また、災害時の緊急通信手段として、10年前の阪神震災時にはケータイが役立ったが、2004年の新潟大震災ではケータイが繋がらず、人々を失望させてしまった事例を引き合いに出して、社会的インフラとしてのケータイの重要性を指摘した。

ビジネスモデルについては、パケット定額制の導入によって、通信トラフィック依存の収益拡大は既に終焉。今後は新たなビジネス分野を開拓せざるを得ないと語った。

NTTドコモのブースは、世界に先駆けて3Gサービスを開始した日本の成功例を一目見ようと、連日多くの来場者でにぎわっていた。

NTTドコモは、日本におけるFOMA端末や、iモードの海外展開状況を図柄にしたボードを展示。また、テレビ電話やおサイフケータイを使ったサービスのデモや、ドコモのR&Dへの取り組みを解説した技術展示を行っていた。

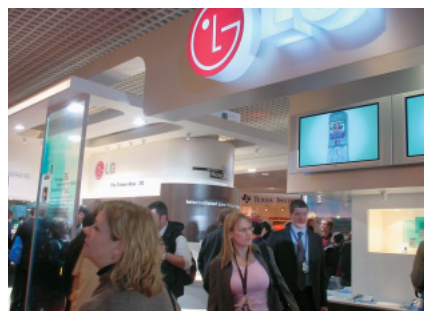
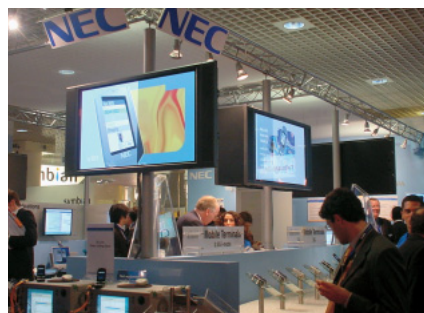
ノキアとマイクロソフトが音楽配信で提携

期間中ノキアは、マイクロソフトとケータイ向け音楽配信における提携を電撃的に発表した。

ノキアは、ケータイOSで英シンビアン社のSymbian OSを採用しており、これ



海外におけるi-modeアライアンスのマップ。



写真上から NEC、パナソニック、LGのブース

までマイクロソフトとは対立する立場にあった。しかし音楽配信では、ウィンドウズのメディアプレーヤー技術を採用することを明らかにした。同社ディレクターのトーマス・ジョンソン氏は提携について「現実的な判断によるもの。協力できる分野では誰とでも協力する」とコメント。ただし、ケータイ OS 分野における競合関係には変わりはない。

この他ノキアは、初めて特定キャリア向けにカスタムデザインされた端末をチャイナ・モバイルに提供する事を明らかにした。日本と異なり、キャリアより端末メーカーの影響力が強い欧州メーカーにとって、これはビジネス戦略の大きな方向転換を示唆している。背景には、キャリア主導で欧州より 3G の立ち上がりがあった NTT ドコモのビジネスモデルの間接的影響もあったのではと推測される。

ソニー・エリクソンから「ウォークマン」ケータイが登場

ソニー・エリクソンは、親会社ソニーの「ウォークマン」ブランドを使ったデジタル音楽プレーヤー付き携帯電話の投入を発表。これまで世界で3億4000万台が売られた「ウォークマン」のブランド力に、同社社長のマイルス・フリント氏も期待を寄せている様子であった。

UMTS (3G) 普及で盛り上がる欧州勢と慎重姿勢の日本勢

日本メーカーでは、パナソニック、NEC、シャープなどが展示を行っていた。

NEC は、欧州向けの i モード端末、GSM 端末、中国向け端末などを出品。シャープは、ボーダフォンと T-Mobile 向けの端末を展示していた。シャープの端末はボーダフォンのカタログでも積極的にアピールされており、シャープがボーダフォンを通して欧州での存在感を増しつつある様子が伺われた。

日本メーカーの中で、最も大きな展示

ブースを構えていたのはパナソニック。Symbian OS 採用端末で、マイクロソフトの Excel データを閲覧、加工できる「X800」や、「VS9」という UMTS (3G) のコンセプトモデルを出展していた。

ただ、UMTS (3G) 普及に盛り上がる欧州メーカーに対し、日本メーカーからはやや温度差が感じられた。例えばパナソニックは、欧州向け UMTS (3G) 端末をまだコマーシャルに投入しておらず、もう少し冷静に欧州市場を見ているように思われる。

韓国勢は衛星放送や地上デジタル放送対応端末を展示

サムスンや LG は、米国ラスベガス開催の CES に引き続き、地上デジタル放送対応端末や DMB 方式の衛星放送を受信できる端末を展示。欧州でも多くの来場者や講演者の注目も集めていた。

加えて LG は、世界初という「プッシュ・トゥ・ビュー (PTV)」端末を展示。複数のユーザーが動画をリアルタイムで共有したり、ビデオ会議ができる機能を備えている。3G のカラーアプリとうたい、積極的なアピールを行っていた。

ただし、韓国企業の出展は CES に比べるとやや控えめで、欧州よりも米国市場に力を入れている印象を受けた。

モトローラ初の i モード端末を欧州向けに発表

モトローラは、同社初の i モード端末「E378i」を欧州市場向けに発表した。i モード専用のキーがあり、ボタンを押すだけで容易にモバイルインターネットが楽しめる。これまで欧州における i モード端末は日本メーカーによる端末が主体だったが、いよいよ世界第2位の端末メーカーであるモトローラも i モード市場に参加することになる。

その他、会場ではクアルコムやサンマイクロスシステムズなどもブースを構え、自社戦略を積極的にアピールしていた。



「ウォークマン」ブランドを使った音楽プレーヤー付き端末を発表した、ソニー・エリクソン。



DMB 方式の衛星放送が受信できるサムスンの端末。



地上波テレビが見られる LG の端末「LT1000」。

エアゴー社が MIMO-OFDM で次世代 Wi-Fi 技術を実現

逆転の発想で MIMO 技術を開発

米国カリフォルニア州パロアルトに本社を置く、次世代 Wi-Fi (無線 LAN) の基盤技術「MIMO」のパイオニアとして注目されるエアゴーネットワークス社 (Airgo Networks Inc.、2001 年 1 月設立、従業員 140 名) は、去る 2 月 16 日、日本法人「エアゴーネットワークス株式会社」を東京・赤坂に開設したと発表、日本の市場に本格的に参入する。

同社は、現在 IEEE802 委員会で標準化が進められている 100Mbps の次世代 Wi-Fi (無線 LAN) 規格「IEEE802.11n」の

基盤技術として採用されている MIMO-OFDM 技術を開発 (1996 年) した、先進的なベンチャー企業である。

これまでの無線 LAN は、1 つのアンテナで送信し 1 つのアンテナで受信する「SISO」(サイソ。Single Input Single Output、単一入力単一出力) 技術が主流であったが、同社ではいち早く「複数のアンテナで送信し複数のアンテナで受信する MIMO (マイモ。Multiple Input Multiple Output、複数入力複数出力。図 1 を参照) 技術を開発し、急成長している。

エアゴーネットワークスのロバート・ディマルティノ社長 (写真) は、「これまで、図 1 のような電波のマルチパス (建物の反射などによって生じる電波の複数の経路) はノイズとなり、障害になるといわれていたが、当社ではまったく逆に、このマルチパスをうまく活用することによって、通信速度も、信頼性も、通信範囲も拡大できることを理論的に確立しました。これに基づいて画期的な MIMO 技術を開発し、実用化の道を開いたのです」と逆転の発想を披露した。

市場を広げる MIMO-OFDM 方式

同社では、すでに標準化され普及している 802.11a/b/g に準拠した MIMO 拡張チップセットを開発し、20MHz の帯域幅で 54Mbps (802.11a/g) の 2 倍に相当する最大 108Mbps (物理層レベル) を実現、量産開始後 6 か月以内に 300 万個を超える記録的な MIMO チップの数を出荷している。

同社では、MIMO と、802.11a/g (無線 LAN) やデジタル放送などでも使用されている OFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplexing、直交周波数分割多重方式) という周波数を効率的に活用して高速化を実現する技術を組み合わせた MIMO-OFDM 方式を開発し、高速で信頼性の高い無線 LAN 技術を実現した。

MIMO に OFDM を組み合わせることにより複雑な処理 (等化器処理) を不要にし、パケットごとの MIMO 演算を可能にした。このため図 2 に示すように 1 つのアクセスポイントで (同一ネットワーク内で)、たとえば従来の 802.11b (11Mbps) や 802.11g (54Mbps)、さらに MIMO を搭載した 108Mbps の MIMO 端末などを混在させることも可能で、これらの異速度の新・旧無線端末の混在環境でもシーム

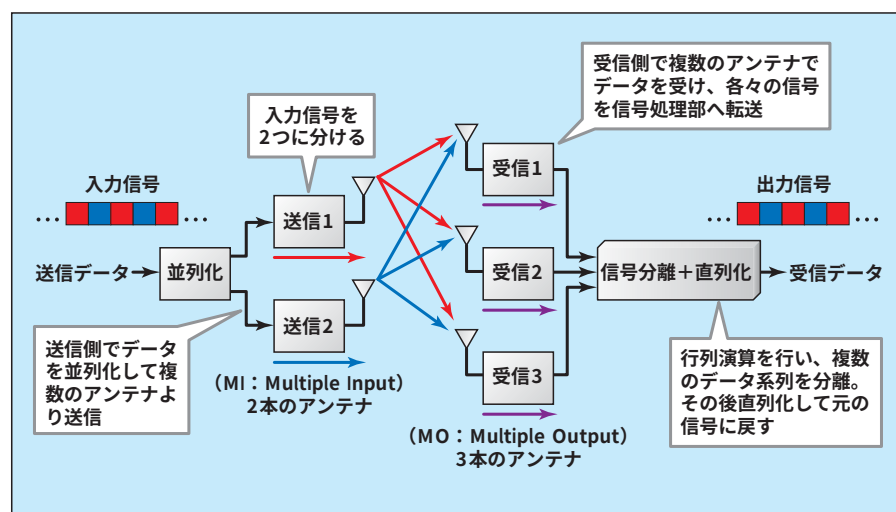


図1 MIMOの仕組み

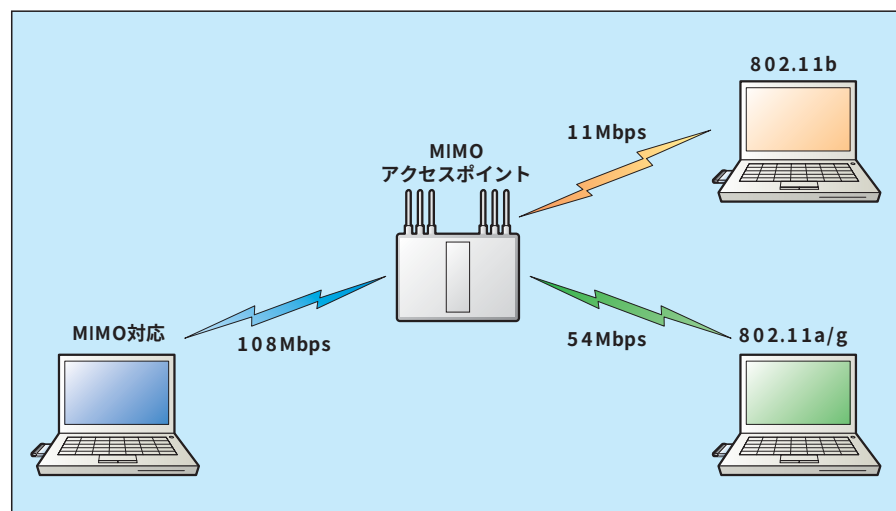


図2 1つのアクセスポイントに新旧無線端末を混在させることができる

レスに通信が行うこともできる。

すでに、ベルキン (Belkin)、リンクシス (Linksys)、スマートビュー (Smartvue)、ソーホウェア (SOHOware) に加え、バッファロー (Buffalo)、ネットギア (Netgear)、プラネックス (Planex) など、多くの無線機器ベンダーが同社の MIMO チップを搭載した製品を出荷 (予定も含む) しており (写真下)、無線 LAN における MIMO 時代が到来している。

ホームネットワークのブロードバンド化

このように無線 LAN が高速化してくると、たとえば図3に示すようにホームネットワークのブロードバンド化が簡単に実現できるようになる。

記者会見の会場では、高木映児氏 (同社テクノロジーアプリケーションディレクター) によって、MIMO 対応の無線機器間で、MPEG-2 で圧縮した標準テレビ用コンテンツ (10Mbps) を 4 本 (約 40Mbps) 同時に流す実験が行われたが、きれいな 4 つの画像がスクリーンに映し出され、MIMO によるワイヤレスブロードバンドの威力が実証された。

最近、日本の家庭環境では、高性能ゲーム機やパソコンはもとより、デジタル放送の開始とともに大画面によるハイビジョン映像関連機器、あるいは家庭におけるホームサーバーの導入などデジタル家電の普及が目覚しくなっている。このため、このようなデジタル家電環境をネットワーク化するワイヤレスブロードバンドとして、MIMO を使用した次世代 Wi-Fi によ

る新しいホームネットワーク市場の展開に、ユーザーはもとより家電メーカーからも大きな関心が集まっている。

なお、同社の MIMO は、「True MIMO」と表現されているが、MIMO について業界でいろいろな表現がなされているため同社では「送受信に複数のアンテナの組を使い、『複数のデータ』を同時に送受する技術を MIMO と定義し、『1 つのデータしか送らない』ビームフォーミング [電波 (ビーム) を効率的に活用する技術の 1 つ] など他のスマートアンテナ技術と区別している。



エアゴネットワークスの取締役社長 口バート・ディマルティノー氏

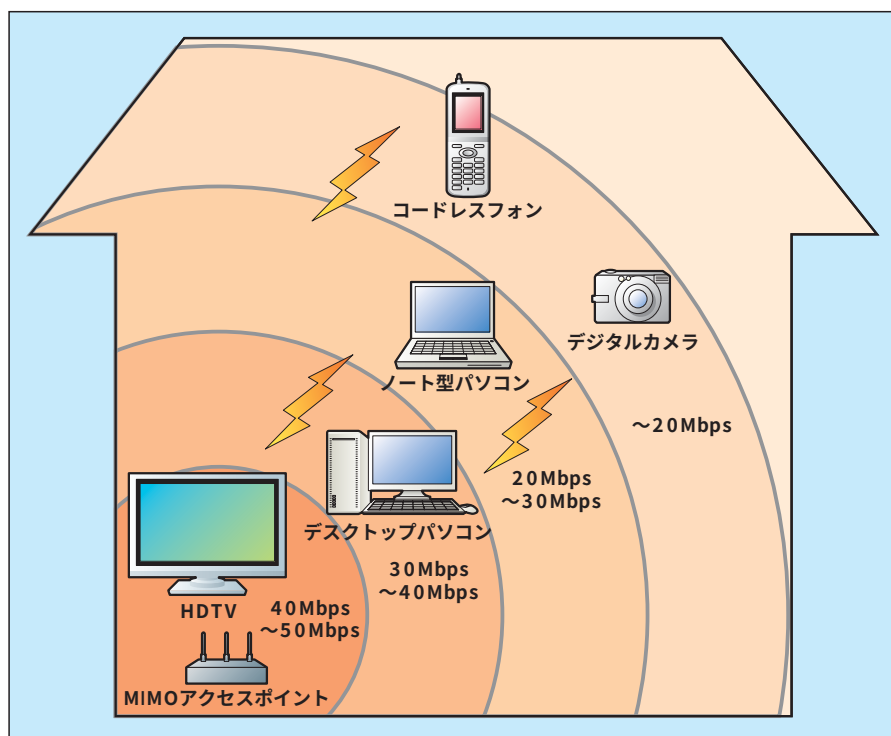


図3 家庭におけるワイヤレスブロードバンド化のイメージ



エアゴの MIMO チップを搭載した各社の Wi-Fi (無線 LAN) 機器。左からプラネックス社製、ベルキン社製、ネットギア社製の MIMO 対応製品。

デスクトップ検索ツールとサジェストが日本語に対応 迅速なローカライズで市場を攻める Google

2月は米国で新サービスラッシュだった Google だが、3月も日本語版のサービス開始を含めて新たなサービスや機能が追加された。

まず3月9日に「Google サジェスト」日本語ベータ版の提供を開始した。このサービスは検索ボックスに検索したい言葉を途中まで入力すると、候補となる検索ワードを一覧表示してくれる。

<http://www.google.co.jp/webhp?complete=1&hl=ja>

10日には「Google アラート」ベータ版を提供開始した。あらかじめ登録したキーワードが Google ニュースの上位10件もしくはウェブの検索結果上位20件以内にヒットした際にメールで知らせてくれる。また Google ニュースにはカスタマイズ機能が追加された。

<http://www.google.co.jp/alerts?hl=ja>

さらに15日にはローカルコンピュータ内の文章や映像、音声ファイルを検索できる「Google デスクトップ検索」日本語ベータ版を発表した。

<http://desktop.google.co.jp/>

同社は他にも Gmail や orkut の日本語化を年内に行うと発表している。また昨年には東京に R & D センターが設立されており、サービスの日本語化と同時に日本オリジナルのサービスにも期待が高まる。



Google サジェストは確定していない日本語についても候補となる検索ワードを表示してくれる。

米ヤフーがウェブサービス API を公開 同時に Overture の名称を変更

ヤフーは「Yahoo! Search Developer Network」を開設し、ヤフーの独自 API を公開した。また Overture の名称を Yahoo Search Marketing Solutions に変更するとし、併せて API を公開した。非商用利用は無料だが商用利用については問い合わせる必要がある。

Yahoo! Search Developer Network ではウェブや画像、動画、ニュースなど各種サーチの API が公開されており、SDK (開発キット) やサンプルコードのダウンロードが可能。また、開発者のためのコミュニティーも用意されている。

Google は 2002 年に API を公開しているが、ヤフーが API を公開し、Overture の名称変更でブランディング戦略を進めることで検索サービスの勢力図がどう変わるのか注目したい。

<http://developer.yahoo.net/>

検索したページをサムネイル表示 新しい検索サイト「マーズフラッグ」

マーズフラッグは、検索結果をサムネイル画像で一覧表示する新しい検索サイト「MARSFLAG」を公開した。該当ページのイメージがあらかじめわかるので、幅広いユーザーが安心して使える。独自のクローラーでイメージを収集し、同社が運営するオンラインブックマークサービスのデータを元に人気度を算出し、検索順位に反映している。

<http://www.marsflag.com/>



今後はサムネイル化されたとき見栄えのするサイトデザインが求められる可能性も

国内主要 ISP と携帯電話事業者が 迷惑メール対策グループ JEAG を創設

3月15日、IIJ、NTTドコモ、KDDI、hi-ho、ぶらら、ボーダフォンが発起人となり、国内主要 ISP や携帯電話事業者などで組織された「Japan E-mail Anti-Abuse Group (JEAG)」が設立された。

現在迷惑メール対策についていくつかの団体が活動中だが、それらは法的側面での活動を中心としている。JEAG では通信事業者やソフトウェア、ハードウェアメーカーなどが連携して、技術的な見地から具体的な対策を実施、検討する。

具体的な活動として Outbound Port 25 Blocking (送信サーバーへの接続規制) や送信ドメイン認証技術による迷惑メール対策の検証や評価を行う。またインターネット利用者とサービス提供者双方への迷惑メール対策の啓蒙、携帯宛て迷惑メールの撲滅に向けた効果的な対策の実施検討を予定している。

安全性維持に採算が取れないため MSN チャットがサービスを終了

マイクロソフトは、「MSN」で提供しているチャットサービス「MSN チャット」を、今年5月9日に終了すると発表した。

同サービスは1995年のサービス開始され、100万人以上のユーザーを抱える。2003年にはサービスの利用年齢制限を設け、有料化なども行ったが、ユーザーの安全性を維持するためのコストがビジネス的に見合わなくなったという。また今後コミュニケーションツールとしては「MSN メッセンジャー」を推奨していくとのこと。

かつてコミュニケーションツールの代名詞であったチャットサービスも安全性のという大きな問題やスカイプ、ソーシャルネットワーキングサービスといった新しいコミュニケーションツールに押され、その役目を終えることとなった。

<http://chat.msn.com/>

NTTドコモとアドビシステムズが 次期FOMA用にPDF閲覧ソフトを発表

アドビシステムズとNTTドコモは、FOMAの次期シリーズから、PDF形式のファイルを閲覧できる「Adobe Reader LE」を採用すると発表した。

「Adobe Reader LE」は、アドビとACCESSが開発した携帯向けのPDF閲覧ソフト。テキスト検索、ファイル回転といったパソコン向け「Adobe Reader」と共通の機能に加え、「Web to」「Mail to」「Phone to」といったiモードならではの機能に対応し、PDFファイルに掲載されたリンク先への移動やメールの送信などが簡単に行える。

ドコモでは、路線図やカタログ、明細書などのコンテンツでの利用が考えられるとしており、個人からビジネスまで、幅広い用途が想定されている。

なお、現在発売されているFOMA 901i/900i/700iシリーズへの対応は未定。

公正取引委員会が独禁法違反でインテルに勧告

公正取引委員会は3月8日、インテルに対して、同社が独占禁止法に違反するとし勧告を行った。

違反行為の概要は、インテルが2002年5月頃以降、国内PCメーカー5社に対して(1)インテル製CPUの割合を100%とする(2)インテル製CPUの割合を90%、競争事業者製CPUの割合を10%とする(3)生産数量の比較的多い製品に競争事業者製CPUを採用しない、という3つの条件を満たせばインテル製CPUにかかる割り戻し、もしくは資金提供を行うと約束し、AMDなどのシェアを下げたというものだ。

勧告承諾の期限は18日で、執筆時点(3月15日)でインテルが勧告に応じるかは未定だが、勧告に応じない場合、審判手続きが開始されることになる。

日本国内で初めて ケータイ向けウイルスの感染報告

フィンランドのセキュリティソフトメーカーF-Secureは3月3日、携帯電話に感染するウイルス「Cabir」の感染が日本国内でも確認されたと公表した。

Cabirは、Symbian OS搭載携帯電話でBluetooth機能をオンにしている場合のみ感染の可能性があるウイルス。

ただし、CabirはBluetooth機能を利用して、他の携帯電話に対してSymbian OSのソフトウェアを送るため、このファイルを実際に実行し、インストールする場合はその許可を求める確認メッセージが必ず表示される。

なお現在国内で発売されている携帯電話では、Vodafone 702NKなどがSymbian OSを搭載している。

高性能なOSを搭載し、進化を続ける携帯電話だが、ウイルス対策が必要になる日も、もうすぐに迫っている。

ウィルコム、業界初の定額音声サービス発表

ウィルコムが、業界初となる音声定額サービス「ウィルコム定額プラン」を5月1日に開始する。月額基本使用料2,900円のみで、ウィルコムの電話機間の音声通話とメール送受信を無料で行える。またプラス2100円の月額5,000円で、電話機単体およびパソコンと電話機を接続したインターネット接続が無料で利用可能なオプションサービス「リアルインターネットプラス[1x]」も7月1日から提供する。

同社はマイクロセルネットワーク技術で多数の基地局にユーザーを分散し、一ユーザー当たりの速度・容量を分散化することで、高音質な音声を大容量に割り当てることが可能になり、今回の音声定額が実現に至ったと説明した。今後はデータ通信事業、音声事業とともに拡大し、新規端末投入も行い早期の400万加入達成を目指す。

JR東日本がモバイルSuicaを発表 ケータイでJRが利用可能に

JR東日本は、携帯電話で電車に乗車できる「モバイルSuica」サービスを2006年1月から開始すると発表した。NTTドコモやソニーと協力し、「iモードフェリカ」の1アプリケーションとしてSuica機能を搭載する。Suicaの定期機能とプリペイド機能の両方を利用でき、チャージはSuica用iアプリからネットワーク経由で行う。なお、auとボーダフォンも2005年中にフェリカ機能を搭載した端末を発売すると発表している。



移動も買い物ケータイ1台で済む日も近い

NTTが伝送速度2.67テラbpsの光ファイバ1000波の多重化実験に成功

NTTは1芯の光ファイバで1000波長分割多重(WDM)伝送に世界で初めて成功したと発表した。

WDMとは送信側でチャンネル毎に異なる波長の光に信号を符号化して多重し、受信側では波長単位で分波、受信することで、複数のチャンネルの信号を1本の光ファイバで伝送する多重化方式のことだ。

従来は波長毎に半導体レーザーを使い波長間隔を制御していたため数100を越える波長の制御が難しかった。今回スーパーコンティニウム光源と呼ばれる多波長光源を採用し、従来の10倍相当の1000波長の多重化を実現し、波長間の時間間隔を従来の8倍相当の6.25GHzに短縮した。伝送速度は2.67テラbps。

NTTでは次世代ネットワークを低コストで実現するための中核技術と位置づけ、5年後の実用化を目指す。

NTTデータ、NTT東日本、NTT-MEが株式会社ウェブプロデュースを設立

NTTデータ、NTT東日本、NTT-MEの3社はウェブを中心とするインタラクティブメディアでのマーケティングやプロモーションを行う事業会社「株式会社ウェブプロデュース」を設立した。合わせてNTT-MEはインターネットキャンペーン事業や映像配信事業、ウェブサイト製作事業について営業譲渡を行う。

同社はインターネットでのキャンペーンサービスや、NTTデータとNTT-MEで実施中の映像事業、ウェブサイトの政策やプロモーション、携帯向けのコンテンツ制作などの事業を行い、2007年度に15億円の売上げを目標とする。

電通の発表によると2004年度のインターネット広告費は1,814億円でラジオの広告費を上回った。今後さらに需要の増すであろうインターネット上での新しいプロモーション手法に注目したい。

SOI Asiaプロジェクトに新たに6校が参加 インド洋津波のシンポジウムも開催

SOI Asiaプロジェクトは2月24日、プロジェクトに新たにアジアの5か国6大学が参加し、東京海洋大学と東北大学農学部が授業提供のパートナーとなることを発表した。

同プロジェクトでは、2001年から衛星を使ってインターネット基盤を構築し、アジアの大学間でのリアルタイム遠隔講義やアーカイブ講義の共有、学会の中継などを行っている。

同日には、昨年末に発生したスマトラ沖地震インド洋大津波で、同プロジェクトの参加地域も被害に遭ったことを受け、被災地域の復興支援におけるアジア地域の大学が果たす役割を議論するためのシンポジウムを開催した。SOIでは4月から、津波に関する特別講義を行なうことを予定している。

<http://www.soi.wide.ad.jp/soi-asia/>

マイティーサーバーが月額9,800円の格安サーバーサービスを開始

マイティーサーバーでは4月より専用レンタルサーバーサービスを開始する。

サービスはエントリープラン、ハードディスクを二重化したスタンダードプラン、さらにデータベースへのアクセス制限や負荷分散で安全性を高めたビジネスプランが用意されている。価格はエントリープランが月額9,800円からと非常に手軽な価格設定となっている。

管理が面倒だと思われがちな専用サーバーだが、同サービスではソフトのインストールや設定など、すべての操作をブラウザから行えるため、共用サーバーと同じ感覚で簡単に管理できる。

なお現在先行予約申し込みを受け付けており、先着20名の初期費用が0円になるキャッシュバックキャンペーンを実施中だ。

<http://www.mtsv.jp/>

Event Calendar

これから開催される国内外の主要なIT関連イベントをご紹介します。
イベント情報掲載希望の方は、次のメールアドレスまでご連絡ください。
im-release@impress.co.jp

期日	名称	場所	URL
3/25-9/25	愛知万博(2005年日本国際博覧会)	愛知県	http://www.expo2005.or.jp/jp/
4/6-4/8	Sensor Expo Japan 2005 (センサ総合展 2005)	東京ビッグサイト	http://www.business-ijp/event/sensor/
4/7-4/4/8	インテル・デベロッパ・フォーラム Japan 2005	ホテル日航東京	http://www.intel.com/jp/idf/
4/13-4/14	IP Forum 2005	東京ビッグサイト	http://www.ric.co.jp/expo/ip2005/
4/16-4/21	NAB 2005	ラスベガス(アメリカ)	http://www.nabshow.com/
4/20-4/21	Search Engine Strategies Conference & Expo 2005 Japan	東京ファッショントウン	http://www.idg.co.jp/expo/ses/
4/20-4/21	Wi-Fi PLANET Conference & Expo Japan 2005	東京ファッショントウン	http://www.idg.co.jp/expo/wi-fi/
5/18-5/20	ビジネスショウ東京	東京ビッグサイト	http://bs.noma.or.jp/
5/18-5/20	Electronic Entertainment Expo 2005 (E3)	ロサンゼルス(アメリカ)	http://www.e3expo.com/
5/1-5/6	NETWORLD+INTEROP Las Vegas 2005	ラスベガス(アメリカ)	http://www.interop.com/
5/10-5/14	The 14th World Wide Web Conference (WWW2005)	幕張メッセ	http://www2005.org/
5/11-5/12	Grid World 2005	東京国際フォーラム	http://www.idg.co.jp/expo/grid/
5/11-5/14	CeBIT ASIA	上海(中国)	http://www.cebit-asia.com/
6/1-6/3	Linux Wordl Conference&EXPO Tokyo 2005	東京ビッグサイト	http://www.idg.co.jp/expo/lw/
6/6-6/10	NETWORLD+INTEROP Tokyo 2005	幕張メッセ	http://www.interop.jp/
6/8-6/9	Content Management Forum 2005	大手町サンケイプラザ	http://www.idg.co.jp/expo/cmf/
6/15-6/17	ケーブルテレビ 2005	東京ビッグサイト	http://www.catv-f.com/
6/22-6/24	第13回産業用バーチャルリアリティ展(IVR)	東京ビッグサイト	http://www.ivr.jp/
7/13-7/15	ワイヤレスジャパン 2005	東京ビッグサイト	http://www.ric.co.jp/expo/wj2005/
7/13-7/15	インターオプト'05	幕張メッセ	http://www.oitda.or.jp/
7/7-7/10	デジタルバブリング フェア 2005	東京ビッグサイト	http://www.digi-fair.jp/
7/20-7/22	e-Learning WORLD 2005-Expo & Conference-	東京ビッグサイト	http://www.elw.jp/

※上記の情報は変更になる場合があります。応募・参加の際には必ず主催者にお確かめください。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp